

今日のみことば

□ 6月24日(日) 歴代誌上 9章

バビロンの捕囚から帰ってきた人々はイスラエル人、祭司、レビ人、神殿の使用人であった。最初の彼らが住んでいた所有地に住んだ。

□ 6月25日(月) 歴代誌上 10章

ここにはサウル王の死と埋葬について記されている。王制政治はダビデから始まるが、イスラエルの最初の王においては十分に学んでおくべきである。

□ 6月26日(火) 歴代誌上 11章

神は多くの人々を通して語られたが、ダビデを王とすると宣言されたのは「神」である。神はすべての出来事を支配され、彼らの間でみ心を成し遂げられることを歴代誌は示しています

□ 6月27日(水) 歴代誌上 12章

なぜ人々がダビデに引かれたか。神が彼と共におられることを知り、彼に付くことは神の側に付くことだと確信が、彼らの中に導かれたからです。

□ 6月28日(木) 歴代誌上 13章

ダビデは神の箱をエルサレムの持ち帰ろうと望んだ。これは正当な願いでした。私たちの生活の中心に置かれるものであって、それを無視することは神を無視することほかなりません。

□ 6月29日(金) 歴代誌上 14章

ダビデは勇戦練磨の勇将であったが、ペリシテ軍のと合戦に出る前には、神の導きを乞い、勝利の栄光のすべてを神に帰しました。

□ 6月30日(土) 歴代誌上 15章

ダビデは「神の箱」を迎えに行きましたが、その箱を担うレビ人が霊的に整えられていず出来事は起こりました。神の働きを担うとき、私たちはしっかり霊的準備が必要です。

ろ ぼ No. 1873
2018年 6月24日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

ロマ 1:16

わたしは福音を恥としない福音は、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです。

神学校週間です。今日、時代はキリストの福音がしっかりと伝えなければならない、本当に大切な時です。それを伝える伝道者がしっかりと養われることを私たちは祈り、支えることは、私たちの務めです。

私は神学部部報で金丸教授の言葉から、何を私たちが祈るべきかを教えていただきました。本当に今日の時代の中で教会は何を目指して働くのか。神はキリスト・イエスを通して何を私たちに下さったか、私たちは本当に神さまが下さった素晴らしい贈り物を、しっかり受け止めることができているか、との問いを、しっかり教会が聞き取ることができるように、その手伝いをする人物を神学校は育てる、という素晴らしい言葉を聞かせていただき感謝でした。

金丸教授は、カルペッパー教授が「神学校は『良い立派な牧師』を作るところではありません。『自分の神学』を作るところです。」との言葉を紹介します。しっかりみ言葉と向きあい神が何をキリスト・イエスを通して私たちに賜ったか。神学校は、一人一人と向きあい、そのありようを育成するのです。私たちはその神学校をしっかりと支援をさせていただくのです。

パウロはその大切な神学の種を、この「ローマの信徒への手紙」で私たちに分けてくれました。この手紙は、ローマのクリスチャンたちへの、パウロの自己紹介ともいえるべきものですがただの自己紹介ではありません。神がパウロに何をしてくださ

創世記 12:1-9 祝福のはじまり

アブラハム物語の最初の言葉です。何度も聞き、ご自身の信仰度をはかられたこともあるのではありませんか。神さまは何を私たちに伝えたかったのでしょうか。

私たちは、復活の主イエスは何時も、私と一緒にであると核心をもって過ごさせていただいています。アブラハムもそうでした。すべてをおゆだねしてきました。そんな彼に神さまは「あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す地にゆきなさい」と命じられました。

生活の保障されたすべてをおいて従えと言われました。どれほどアブラハムは戸惑い悩んだことでしょうか。彼の思いは記されていません。神の一方的祝福だけが記されています。それこそが、神さまが私たちに語り伝えられたかったことではなかったかと思っています。このアブラハムの信仰、それがすべての祝福の始まりです。



Read God's Word.

ったか。イエス・キリストとはどのようなお方であるか、語ってくれます。「わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシャ人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです」(1:16)と言いました。

パウロにとってこの「福音」こそが彼のすべてでした。私たちがそのパウロの思いを、どれほどしっかり受け止めることができているか。それは私たちの信仰のすべてを左右するものだと私は思っています。「福音」はその言葉の通り「良い知らせ」です。何の変哲もありませんが、新約聖書の中にあってはただ「良い知らせ」ではすみません。イエス・キリストが宣べ伝えられた神の国が「良い知らせ」(マタ4:23, 9:35. 24:14)でした。この語がキリスト教の中で中心的な位置を占めるのは、何よりもパウロが、しっかりこの言葉を確保してきたからにほかなりません。「福音」は「神の福音」(マル1:24, テサロニケー2:2)とも呼ばれました。この言葉は人々が夢にも思わなかったような神の姿、愛のみ心を持つ神について語りました。神が送ってくださった良い知らせです。その背後には神がおられます。神はその独り子を賜ったほどに、この世を愛してくださった、「良い知らせ」は「神のもの、神から来たもの」なのです。それはユダヤ人だけにとどまらない、ギリシャ人にも、神が造られたこの世界すべてのものへの知らせのほか何ものでもない、パウロの世界伝道への大きな夢を見させていただくのです。

この良い知らせは、イエス・キリストの十字架と復活において他に見出すことはできません。世の多くの人々からは受けとめられがたい事実でしょうが、すべての造られたもの救いはここ以外に見出すことはできないのです。

次週の聖書・説教	ロマ2:1-16	全世界を救いへ
----------	----------	---------